

先端産業向け製品拡充へ

バルカー、半導体系で攻勢

バルカーは、半導体製造装置用部材を主とする先端産業市場向け製品群の拡充に取り組み、主力のフッ素樹脂・エラストマー製品で培った設計・配合、加工技術をスーパーエンジニアリングプラットフォームやメタル系素材に応用し、多様なニーズに対応できる製品群を確立する。一部の素材では試作品も完成させており、顧客提案を開始した。資本業務提携するコネクテックジャパン（CTJ、新潟県妙高市）との共同開発品である薄型振動センサーは工業設備の予防保全用途を想定し、年度内の発売を予定する。現在、同社では来期からの新戦略の策定を進める。本坊吉博社長COO（最高執行責任者）は「成長領域への傾斜を加速する」と話す。

フッ素材の設計・配合技術に磨き スーパーエンブラや メタル系素材に応用

【世界トップシェアを有する米ラムリサーチ（カリフォルニア州）からサプライヤー優秀賞を意味するゼネラル・エクスレンス・アワードを獲得している。機能性樹脂製品は、フッ素樹脂の特徴である耐熱性、耐化学薬品性を損なわない設計、加工技術を駆使した高精度な部材を得意とする。半導体製造プロセスは、微細化の進展など技術革新を背景に各部材には要求品質の厳格化が進む。同社では将来の顧客要求に備えフッ素材の設計、配合技術を追求するとともに、他素材への応用にも取り組む。試作品開発を通じて、パートナー企業との連携を構築し、製品化へのベース作りを進める考え。また、IT技術と融合した高度予防保全技術の適用は、製造設備の安定稼働への貢献が期待できる。バルカーが昨年に発売した油圧シリンダーのメンテナンス予測システムは、これまでの開発で培った劣化予測などの知見をセンシングやアルゴリズムに落とし込むことで、部材の不具合監視や交換時期予測を可能にした。CTJと共同開発した薄型振動センサーは、同システムの知見も取り入れ、配管などの常時監視システムなどへの採用活動を進める。

フッ素材は、低誘電正接性の特徴を生かし、高速通信領域での応用拡大が期待される。他材料との複合化などの課題があり一部の用途に限定されているのが現状だ。バルカーでは、これまでの知見、技術を応用したフッ素樹脂の電子基板など、新領域に向けた製品開発も進める。



本坊COO

バルカーの先端産業市場向け製品は、半導体製造装置用高機能シール製品や薬液貯蔵用ライニングタンク（特殊タンク）などの機能性樹脂製品を主軸とする。2021年度中間決算（4～9月）

では、半導体市場の活性化により先端産業市場向けが牽引し、大幅な増収増益を確保した。下期も半導体製造装置の出荷および半導体デバイス生産数量は高水準で推移すると予想。受注残も加味した

通期業績予想の増額修正により、現中期経営計画の営業利益と純利益の目標数値は1年前倒しの到達を見込む。この状況を受け、事業戦略などの見直しを進める。同社の半導体製造装置用高機能シール製品は、フッ素系エラストマーをベースにした高性能、高品質が特徴で、エッチングなど半導体製造の中でも重要プロセス向け製品として多くの採用を獲得している。エッチング装